

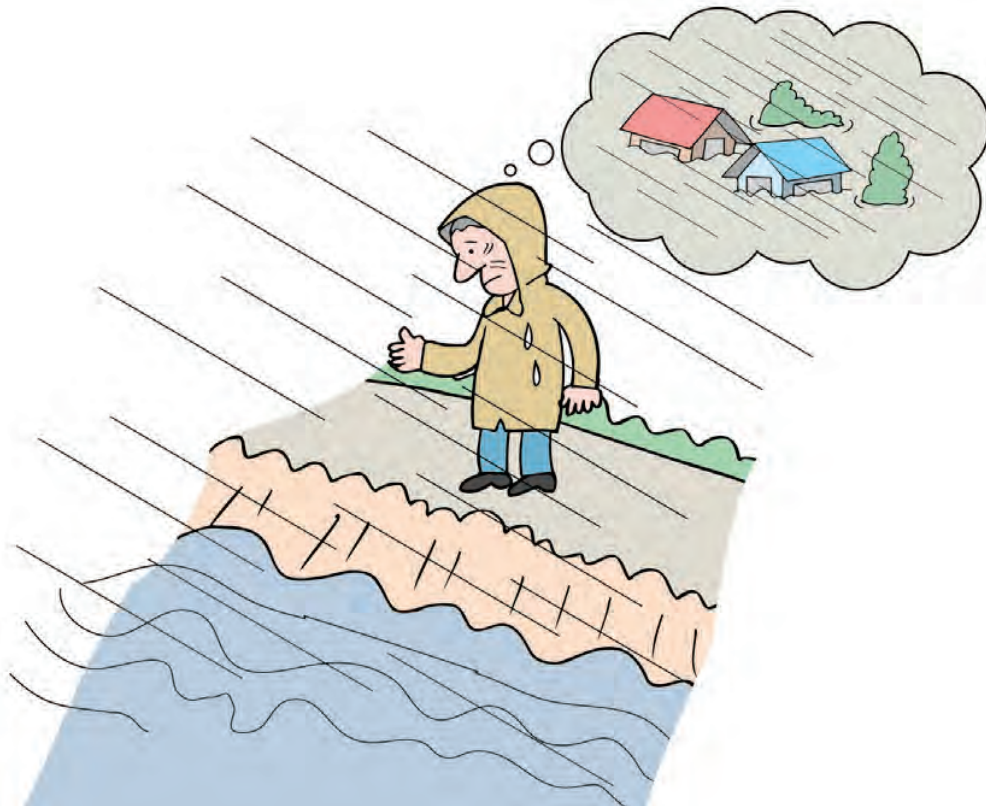
「いままで大丈夫だったから」は危ない

（徳島市 60代 男性）

ずっと昔、我々がちょうど小学校2、3年生のころに、今回と同じ川の堤防が決壊して、軒下まで水が来たんです。そのときに大きな被害を受けたので、地区の人たちの台風に対する備えや考え方は十分にできていたと思いますが、「40年以上たったから、もう心配ない」というのがどこかにあったのではないのでしょうか。

平成16年は台風が特に多かった年で、5回台風が来てもなんとかなっていたものだから、6回目の台風23号の時には、「避難しろ」と言っても、なかなか言うことを聞かなかったということなんですよ。

それで大変な被害を受けたものだから、あれから、台風がくるといえば、みんな、車とかを高いところに上げています。それがいつか、「上げたけど心配なかった」になり、「もう上げなくてもいい」というようになって、危機感がだんだん薄れていかなければいいのですが。今回の水害で、『災害は忘れたころにやってくる』ことを実感しました。



避難の準備をする間、ジャーのごはんをおにぎりに

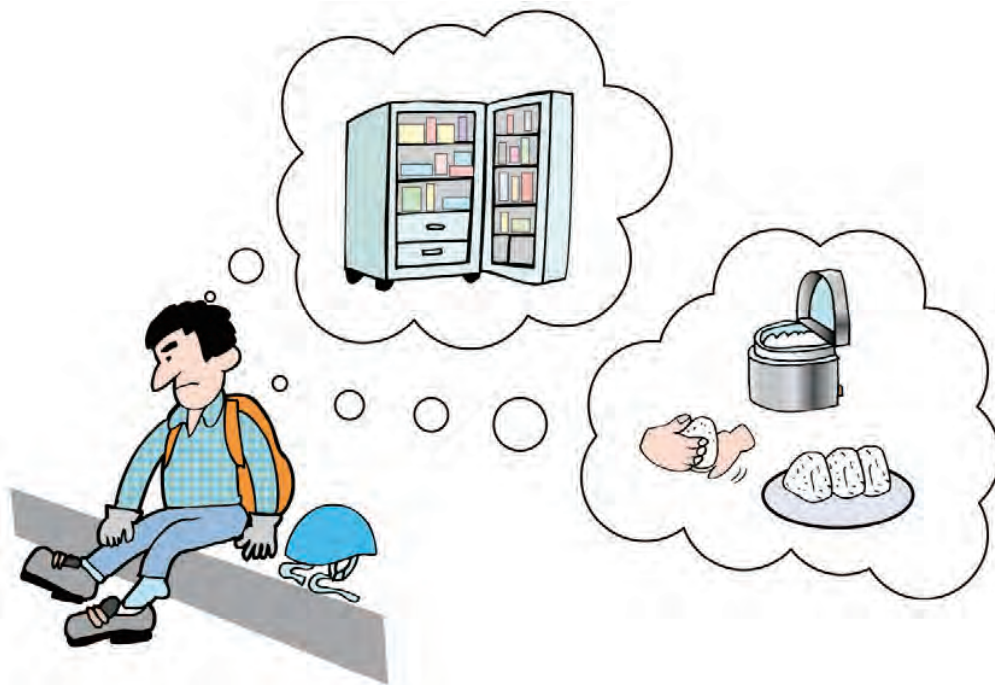
（福知山市 50代 男性）

当時、避難所の毛布が足らなかったという話をよく耳にしました。だけど、あのとき、週末でお父さんたちも家にいたのに、何で自分らの毛布一つ持っていかなかったのか、行政に対してものを言う前に、「じゃあ、自分はどうだったの？」と思うのです。毛布は2枚あったほうがいいし、3枚あったほうがもっといいわけです。

それから、避難の準備をするときには、ジャーの中のご飯を出しておにぎりを作るとか、冷蔵庫のソーセージを袋に入れるとか、いろいろ考えられますよね。

市のほうが人数分きっちり用意したとしても、それを運んで来られない場合もありますから、常に自己防衛策を頭のすみにおいておくことが必要だと思いますね。

毎年9月に地域の防災訓練があって、避難訓練をやっていますが、うちの自主防災としては、できるだけリアルに、必要な荷物を持って逃げる訓練に参加してくれる人を増やしていきたいと思っています。



のんびり聞こえた「避難勧告」

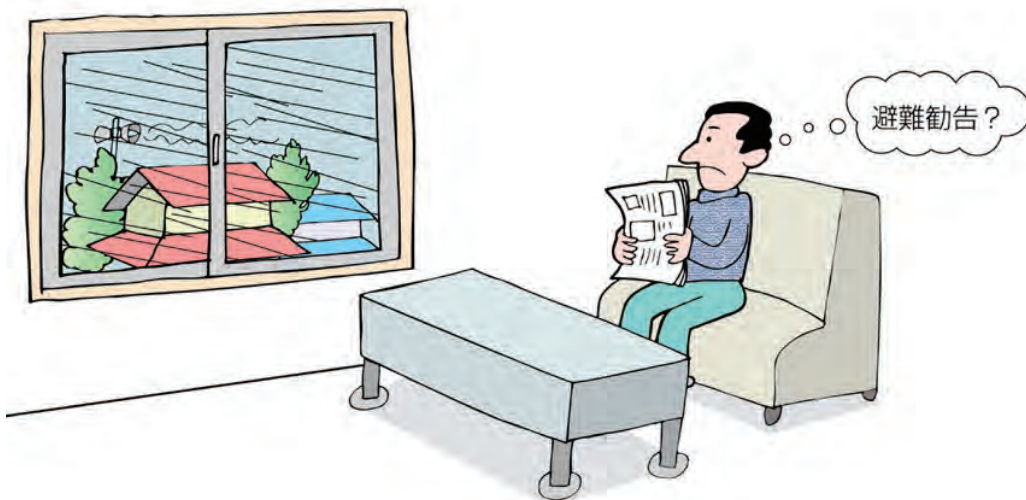
～緊迫感なかった防災無線～

（豊岡市 50代 男性）

夜になって防災無線が入ったんですが、何とものんびりした感じなんですよね。おとしよりのためにゆっくりしゃべるということもあったのかもしれませんが、何だか避難命令という緊急性とはかけ離れているように思いました。

もう家の玄関のところに水が来てしまっているのに、「避難勧告が出ました」とペラッと緊迫感のない声で言っているだけなんです。もう少し大きい声で、大変な状況になっているということが伝わってくるような調子で言ってもらえば良いのにと思いました。

情報の伝達にもスピード感がほしいですね。昔は地区の消防団などを介して、近くの川の水位が今どのくらいになっているというような情報が、すぐに家々に伝わって来たものです。防災無線のリアリティーのなさもそうですが、もうちょっと地域の情報がすぐに伝わる仕組みが必要ですね。



おばあさんを背負って山の中腹へ

津波を見に行って、危機一髪

徳島県海部郡 80代 男性

ものすごく家が揺れてね。2階に寝よったから階段をはうようにしておりて、隣の空き地へ行ったのよ。で、一たん揺れがおさまってから、このままではいかん、こういう格好では何もできないと、服を着替えに2階へ上がっていった。そしたら、隣のおばさんが「井戸の水が引いたぞー、津波が来るぞー」言うて、どなっとるんよ。

すぐに逃げなきゃいけないのに、その頃は全く津波や地震の知識がなくてね。津波が来る、こら面白いなということで、海に見える土手まで見に行ったんです。すると、水がドーっと上がってきとる。これはいかんわと、あわてて家へ帰りました。

家では、84歳のおばあさんが寝ていたのですが、布団のそばまで津波の潮が来ていました。それからアッという間に部屋の畳が浮き出したんです。

水はもう腰ぐらい。私は、「おばあさんを死なせちゃならない」と背負って、藻やらが浮く水の中をかき分け、かき分け、150mぐらい先の山の中腹に住む知人宅へかつぎ込みました。気がつけば、浴衣1枚でしょう。寒うてねえ。枯れ枝を集めてきて、さあ火をつけよう思うて、マッチをなんぼすっても火がつかんのじゃ、手が震えて。



大型テレビが3回飛んだ

石巻市 50代 男性 電器店主

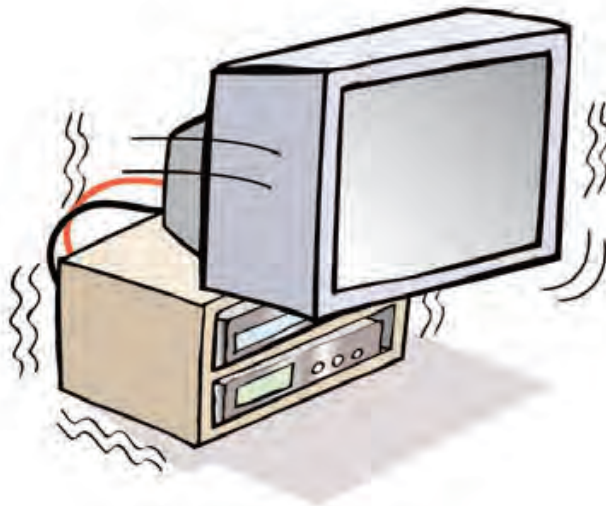
床よりも畳の上に置いてあるほうが壊れないんですよ、テレビのブラウン管って。当たり前ですが、衝撃が少ないですからね。

うちが販売しているテレビには、テレビ台とつなぐ留め具がちゃんとついているんです。その留め具を使って留めてさえいれば飛ばないんですよ。それをしなかったところは飛んじゃっている。

で、夜中の12時に飛んで、朝の7時に飛んで、夕方の5時に飛んだ。つまり、地震が起こるたびに3回テレビが飛んだお宅がありました。それも「36インチの大型テレビ」です。

ブラウン管のテレビって、悪いことに前のほうに重心があるんですよ。だから、ちょっとすると前にすぐ倒れてしまうんです。最近はブラウン管を使わない薄型のテレビが多くなっているから、ちゃんと留めておけば、倒れる心配はないと思います。

台所の電子レンジとか、電気がまとか、トースターとか、訪問したお宅ではいろいろなものが飛んでいました。やっぱり安全な場所に片づけたり、落ちないように留めておくことが大事だなと、つくづく思いました。



一日前プロジェクト

みんなでやってみよう!

----- 簡単な手順を紹介します -----

まず、過去の自然災害（地震、水害）の中から対象を選ぶ

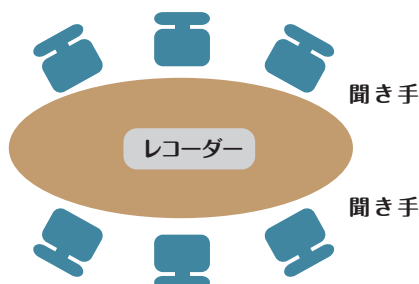
その災害の被災経験者や災害対応経験者に声をかける

みんなが集う場所と時間を設定する

※所要時間は2時間

なごやかな雰囲気の中で、当時を思い出しながら、体験したり感じたことを話し合ってもらおう

※話し手は、2～4人が適当



「教訓」や「知恵」につながる部分を拾い出し、タイトルをつける

テープ起しなどを基に、拾い出した部分を物語にする

※物語は、300～500字程度で、できるだけ切り口を残して編集

※物語の情景をあらわすイラストや写真等を添えると効果的

作成した「物語」を地域や職場のみんなに読んでもらう

気づき

共感

反省

「一日前プロジェクト」とは、地震や水害などの自然災害で被災した方や災害対応の経験をもつみなさまにお集りいただいて、

- 被災前後の行動
- 体験を通じて上手くいったと思うこと、失敗したと思うこと
- もう一度災害が発生したならば、次はどのように行動したいか
- そのために日頃から何を準備しておけばよかったか

といった本音の話をお聞かせいただき、これらの話から導き出されるさまざまな教訓や身につまされる体験をショートストーリー（エピソード）に取りまとめるという活動です。

こうして取りまとめたエピソードを広く活用・普及させることで、地域のコミュニティや国民一人ひとりに、防災・減災への関心や意識を高めていただくことを目的としています。

ここで紹介する物語は、ほんの一部です。一日前プロジェクトから生まれた物語は、内閣府の「災害被害を軽減する国民運動のページ」 <https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/ichinitimae/index.html> に掲載されています。ぜひ、アクセスしてみてください!きっと、あなたの心を動かす物語が見つかるはずです。

■一日前プロジェクトの物語・イラストは、非営利の目的であれば、広報誌やパンフレットなどご自由にお使いいただけます。
「災害被害を軽減する国民運動のページ」(<https://www.bousai.go.jp/kyoiku/keigen/>) からダウンロードしてください。



発行

内閣府(防災担当)

〒100-8914 東京都千代田区永田町1-6-1(中央合同庁舎8号館)

TEL 03-5253-2111 URL <https://www.bousai.go.jp>

